



# 冬期に弱い新型車両E129系で良いのか!

## 申3号 E129系運用に伴う輸送障害の解消に向けた緊急申し入れ

E129系の冬期運用に関して私たちは、冬期検証交渉等を通じて寒冷地で運用する車両としての走行性能等に対する検証の必要性を訴え、現場第一線で働く社員を代表して幾度となく警鐘を鳴らしてきました。しかし経営側は「営業列車での検証を行っていく」との回答に終始し、十分な検証がなされないまま運用が拡大されました。結果、想定された問題はおろか、昨冬時点で既に発生していた事象・現象への対策さえ講じず今冬期を迎え、12月にはE129系の性能や構造に起因すると思われる事象発生により輸送混乱を招き、お客さまに多大なご迷惑をお掛けするに至りました。

着雪によるパンタグラフの通電不能や、ディスクブレーキ凍結による起動不能などはいずれも昨冬に発生しており、本来は既に対策が講じられているべき事象です。本格的な冬を迎える以前から事象が相次いだことから、現場社員の不安は日に日に増すばかりで、現場管理者を含め指導、教育、対応に難渋しているのが実態です。

輸送障害を最小限に抑える努力を怠らないことが労使共通の認識である「雪に強い鉄道」の実現に必要であり、お客さまからの信頼や、社員の働き甲斐の向上へと繋がります。その具体的実践が一つひとつの事象の原因を明らかにして対策を講じることであり、安全で安定した輸送に供し得る車両へと磨きをかける事であるとの認識です。従って一刻も早い対策を求め下枠の通り申し入れました。

### 申3号 申し入れ項目

1. 12月11日、水上駅構内(下1番)において1747Mの出区点検時に発生した通電不能の原因と対策を明らかにすること。
2. 12月14日、水上駅構内において1751Mが発車した際に、ノッチ投入と共に発生した機器情報表示(OVR、ノッチオフ指示)の繰り返しにより力行不能となった原因と対策を明らかにすること。
3. 12月29日、石打駅構内(留置3)において1720Mの出区時に発生したディスクブレーキ凍結による起動不能対策を明らかにすること。
4. 12月29日、水上駅構内(中線)における1720M~1729Mの折り返し運用で発生したディスクブレーキ凍結による起動不能対策を明らかにすること。
5. E129系のパンタグラフ上昇時の緩衝をなくすこと。
6. E129系のパンタグラフ離線時に発生するVVVF及びSIVの保護動作を緩和させた車両を試験運用し、車両構造上の問題の有無を検証すること。また、検証結果を明らかにし、問題がなければ全編成に適応すること。
7. E129系車両に関する事象・現象の発生後、現場において情報の共有化が出来る体制を構築すること。